



Title	日本英語検定協会からの受託研究について
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2014, 38, p. 163-164
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99387
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本英語検定協会からの受託研究について

大阪大学言語文化研究科言語社会専攻英語部会では、昨年度に引き続き2013年度も、日本英語検定協会から受託研究を受け入れ、次のような事業を行った。

1. ヨーロッパ標準言語参照枠（CEFR）に基づくアセスメントテストであるBLUTSを、外国語学部の1回生、2回生全員に実施。1回生秋の時点でのTOEFL-ITPが実施されており、さらに2回生学年末にはTOEFL, TOEIC, IELTSなどの検定試験のスコアの提出が義務付けられているため、外国語学部生の英語の到達度についての多角的なデータが蓄積され、指導に活用されている。
2. World English Forumと題して、外国語学部生を対象に、アメリカ領事およびACE（Associates Cultural Exchange）から講師を招いて英語による講演会を開催した。学生から英語で活発な質疑が行われ、学生の認識を深め留学を促進する上で成果をおさめた。なおACEの協力で合衆国の大規模における短期留学コースの設置準備を進めている。
3. 工学部の学生、院生を対象に、2週間にわたって集中的な英語によるプレゼンテーション能力養成講座を開催し、11月には日本英語検定協会およびJapan Timesとの共催で理系院生のプレゼンテーションコンテストを中ノ島センターで開催した。コンテストでは見事なプレゼンテーションが行われ、修了生の中からは国際会議で発表し、賞を受賞する学生までおり、顕著な成果を上げている。
4. 今年度から新たに、夏休みに中ノ島センターを会場とし、大阪、京都、兵庫の教員委員会と協力して、現役の英語教員を対象にしたネイティブによるTEFL（TESL）の講座を開設した。熱心な参加者によって充実した講座となつた。

日本英語検定協会からの受託研究について

5. この他、例年どおり、外国語学部生を対象としたエッセイコンテスト、プレゼンコンテストを開催した。

なお大阪大学が現在検討している「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の一環として、本受託研究における英語プレゼンテーション能力養成講座を土台とする「アカデミック・イングリッシュ・サポート・デスク」の構想が盛り込まれている。また国際交流オフィスを実施主体として、2014年2—3月に大阪大学の3キャンパス21クラスで実施された「実践英語力強化講座」についても、企画と運営について日本英語検定協会と連携して協力した。さらに医学部からの依頼により、医学部の英語教育改革についてCEFRを基礎とした改革プランの作成に協力した。来年度も引き続き、様々な取り組みを通じて、CEFRを基礎とした新たな分野における教授法の開拓などの可能性を模索してゆくことが求められている。

(文責 受託研究担当 岡田 新)